

損益状況（連結ベース）

●FFG連結

（単位：億円）

	平成20年度 中間期	平成21年度 中間期	前年比
経常収益	1,481	1,280	▲200
業務粗利益	927	1,008	81
資金利益	839	823	▲16
役務取引等利益	147	126	▲20
特定取引利益	1	2	0
その他業務利益	▲60	57	117
経費（除く臨時処理分）	648	634	▲15
業務純益	416	312	▲104
コア業務純益	359	367	8
経常利益	188	161	▲27
信用コスト	129	142	13
中間純利益	106	242	136

平成21年度中間期（平成21年9月期）は、政府による経済対策の効果や企業の在庫調整の進捗等に加え、海外需要が改善したこと、景気に下げ止まり感がでてきましたが、中小企業については回復感に乏しく、内需および雇用情勢は依然厳しい状況が続きました。「経常収益」は、貸出金利息や株式等売却益の減少等により、1,280億円となりました。

「コア業務純益」は、資金利益および役務取引等利益の減少をその他業務利益（国債等債券損益を除く）の増加および経費の削減によりカバーした結果、前年比+8億円増加し、367億円となりました。

「経常利益」は、信用コスト（償却債権取立益を除く）の増加等により、前年比▲27億円減少し、161億円となりました。

「中間純利益」は、福岡銀行子会社の親和コーポレート・パートナーズ株式会社を清算する方針としたことに伴い、繰延税金資産が160億円計上された結果、前年比+136億円増加し、242億円となりました。

主な指標

（単位：%）

	平成21年 3月末	平成21年 9月末	21年3月末比
不良債権比率 （3行合算+分割子会社）	3.70	3.46	▲0.24
自己資本比率（連結）	9.26	10.07	0.81
うちTierI比率（連結）	5.56	6.15	0.59

不良債権比率は21年3月末比▲0.24%低下し、3.46%（20年9月末比▲1.12%）と、着実に減少しております。

自己資本比率は10.07%（21年3月末比+0.81%）、TierI比率は6.15%（同+0.59%）といずれも上昇しました。

総資金（預金+NCD）の状況

総資金（預金+NCD）は、個人預金が堅調に推移しました結果、前年比+10億円の10兆1,609億円となりました。

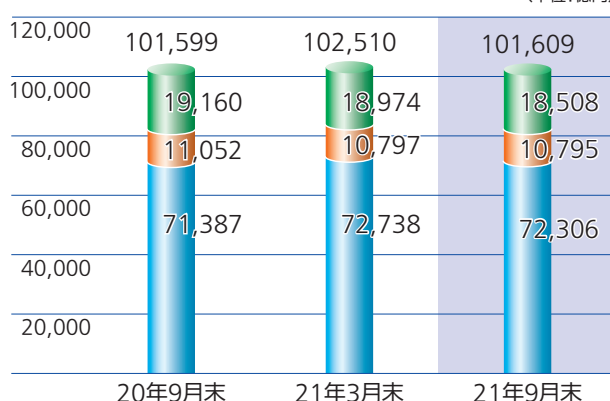
※NCD…譲渡性預金

貸出金の状況

貸出金は、不良債権のオフバランス化を進めた一方で、地元企業や個人のお客さまの資金ニーズに積極的にお応えしました結果、前年比+1,880億円増加し8兆2,267億円となりました。

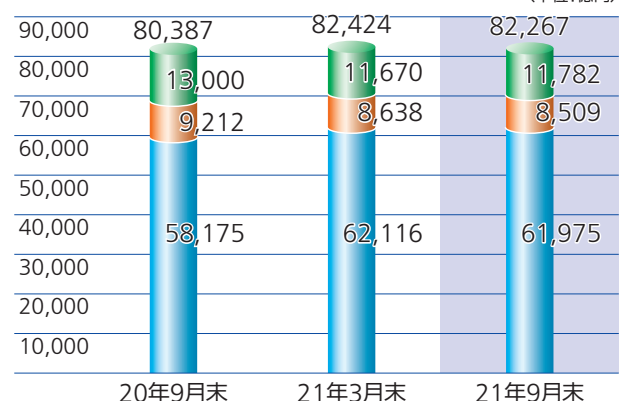
総資金残高（期末残高） 福岡銀行 熊本ファミリー銀行 親和銀行

（単位：億円）



貸出金残高（期末残高） 福岡銀行 熊本ファミリー銀行 親和銀行

（単位：億円）



損益状況(単体ベース)

(単位:億円)

	平成20年度 中間期	平成21年度 中間期	前年比
経常収益	1,038	907	▲130
業務粗利益	615	684	69
資金利益	561	576	15
国内部門	528	546	18
国際部門	33	29	▲3
役務取引等利益	93	75	▲18
特定取引利益	1	1	0
その他業務利益	▲41	32	73
経費	371	370	▲2
業務純益	210	251	41
コア業務純益	298	308	10
経常利益	163	153	▲10
信用コスト	137	100	▲37
中間純利益	93	258	166

「経常収益」は、有価証券利息や株式等売却益の減少等により前年比▲130億円の907億円となりました。

「コア業務純益」は、役務取引等利益が減少したものの、国内資金利益およびその他業務利益(国債等債券損益を除く)が増加したことにより、前年比+10億円増加し、308億円となりました。

「経常利益」は、信用コスト(償却債権取立益を除く)が減少しましたが、有価証券(株式・債券)関係損益およびその他臨時損益等が減少したこと等により、前年比▲10億円減少し、153億円となりました。

「中間純利益」は、子会社の親和コーポレート・パートナーズ株式会社を清算する方針としたことに伴い、繰延税金資産が160億円計上された結果、前年比+166億円増加し、258億円となりました。

主な指標

(単位:%)

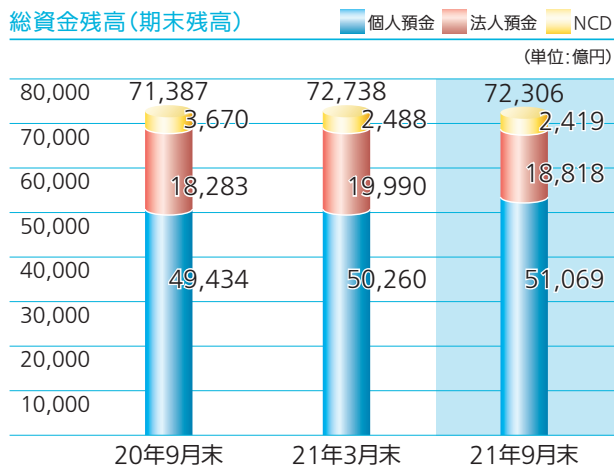
	平成21年 3月末	平成21年 9月末	21年3月末比
不良債権比率(単体)	4.07	3.76	▲0.31
自己資本比率(連結)	11.14	11.87	0.73
うちTier I比率	9.22	9.73	0.51

不良債権比率は、21年3月末比▲0.31%低下し3.76%(20年9月末比+1.30%)となりました。

自己資本比率(国内基準)は、21年3月末比+0.73%上昇し11.87%、Tier I比率も同+0.51%上昇の9.73%となりました。

総資金(預金+NCD)の状況

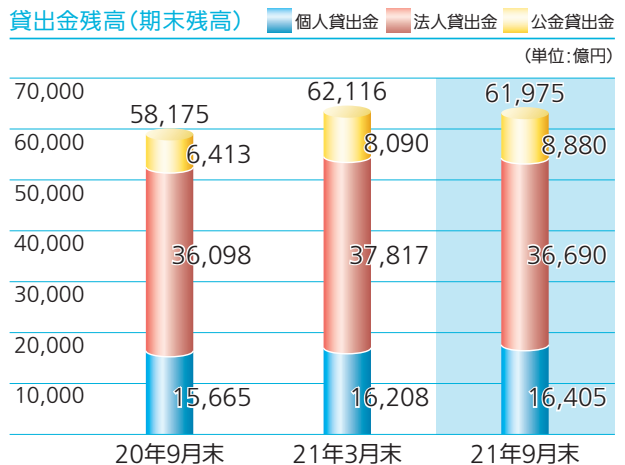
総資金(預金+NCD)は、個人のお客さまからの積極的な預金獲得に伴い、個人預金が前年比+1,635億円増加したことを主因に、前年比+919億円増加の7兆2,306億円となりました。



貸出金の状況

貸出金は、地元企業を中心とした新規取引の開拓など積極的な需資の取込みや住宅ローンの積上げを中心とした個人貸出金の推進を図った結果、総貸出金は前年比+3,800億円増加の6兆1,975億円となりました。

(法人貸出金にはFFG向け貸出金(20年9月末700億円、21年3月末1,050億円、21年9月末1,070億円)、熊本ファミリー銀行向け貸出金(20年9月末100億円)を含みます。)





損益状況(単体ベース)

(単位:億円)			
	平成20年度 中間期	平成21年度 中間期	前年比
経常収益	181	146	▲35
業務粗利益	120	116	▲4
資金利益	115	107	▲7
国内部門	114	107	▲7
国際部門	0	0	▲0
役務取引等利益	11	8	▲3
特定取引利益	—	—	—
その他業務利益	▲6	1	7
経費	81	85	4
業務純益	45	30	▲14
コア業務純益	36	31	▲5
経常利益	23	9	▲14
信用コスト	13	10	▲2
中間純利益	22	9	▲13

「経常収益」は、貸出金利息減少に伴う資金運用収益の減少等により、前年比▲35億円の146億円となりました。

「コア業務純益」は、国内資金利益および役務取引等利益の減少により、前年比▲5億円減少し、31億円となりました。

「経常利益」は、信用コストは減少したものの、コア業務純益の減少に加え、有価証券(株式・債券)関係損益の減少等により、前年比▲14億円減少し、9億円となりました。

「中間純利益」は、以上の結果、前年比▲13億円減少し、9億円となりました。

主な指標

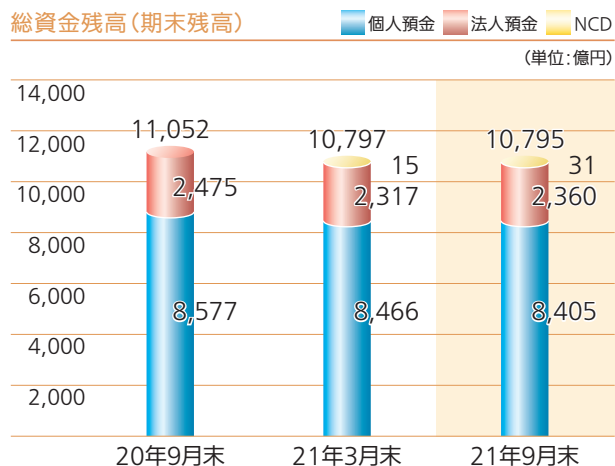
(単位:%)			
	平成21年 3月末	平成21年 9月末	21年3月末比
不良債権比率(単体)	1.33	1.61	0.28
自己資本比率(連結)	9.15	9.41	0.26
うちTier I比率	7.04	7.27	0.23

不良債権比率は、21年3月末比+0.28%上昇し1.61%(20年9月末比▲3.78%)となりました。

自己資本比率(国内基準)は、21年3月末比+0.26%上昇し9.41%、Tier I比率も同+0.23%上昇し7.27%となりました。

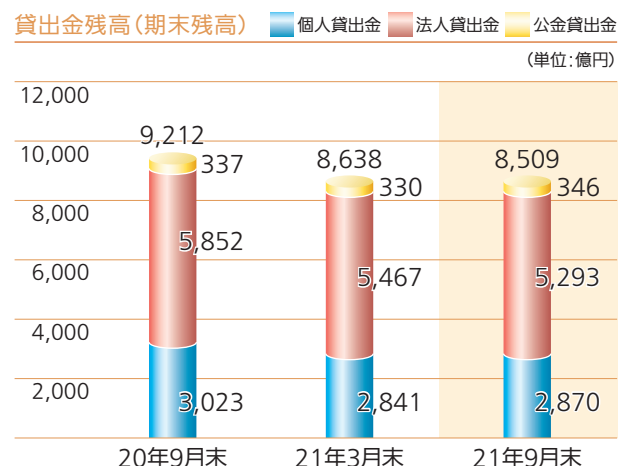
総資金(預金+NCD)の状況

店舗統廃合等の影響により、個人預金が前年比▲172億円、法人預金が前年比▲115億円となり、総資金残高は前年比▲257億円の1兆795億円となりました。



貸出金の状況

会社分割の影響等により、個人貸出金は前年比▲153億円、法人貸出金は前年比▲559億円となった結果、総貸出金残高は前年比▲703億円の8,509億円となりました。



損益状況(単体ベース)

(単位:億円)

	平成20年度 中間期	平成21年度 中間期	前年比
経常収益	266	213	▲53
業務粗利益	149	167	18
資金利益	158	141	▲17
国内部門	156	138	▲18
国際部門	1	2	1
役務取引等利益	25	24	▲1
特定取引利益	—	—	—
その他業務利益	▲34	2	36
経費	135	118	▲16
業務純益	14	56	42
コア業務純益	44	48	4
経常利益	▲44	33	77
信用コスト	▲35	9	45
中間純利益	55	33	▲22

「経常収益」は、貸出金利息の減少に伴う資金運用収益や株式売却益の減少等により、前年比▲53億円の213億円となりました。

「コア業務純益」は、貸出金利息の減少等を主因として国内資金利益が減少しましたが、経費の削減等により、前年比+4億円増加し、48億円となりました。

「経常利益」は、信用コスト(償却債権取立益を除く)が増加しましたが、有価証券(債券・株式)関係損益が改善したことにより、前年比+77億円増加し、33億円となりました。

「中間純利益」は、前年の貸倒引当金取崩益(87億円)の不計上および償却債権取立益が減少したこと等により特別損益が前年比▲98億円減少した結果、前年比▲22億円減少し、33億円となりました。

主な指標

(単位:%)

	平成21年 3月末	平成21年 9月末	21年3月末比
不良債権比率(単体+分割子会社)	3.47	3.27	▲0.20
自己資本比率(連結)	10.12	10.34	0.22
うちTier I比率	6.36	6.84	0.48

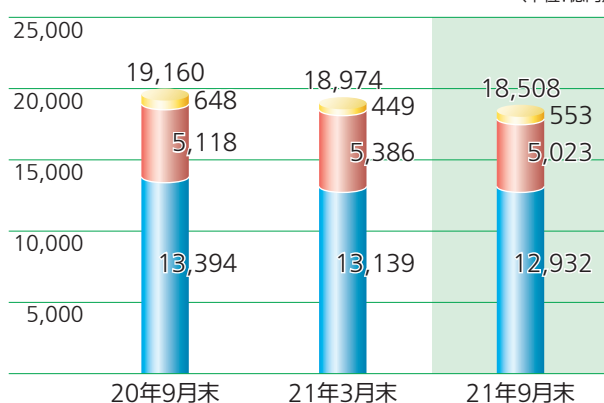
不良債権比率は、21年3月末比▲0.20%低下し、3.27%(20年9月末比▲10.17%)となりました。

自己資本比率(国内基準)は、21年3月末比+0.22%上昇し10.34%、Tier I比率も同+0.48%上昇し6.84%となりました。

総資金(預金+NCD)の状況

店舗統廃合などの影響により、個人預金が前年比▲462億円、法人預金が前年比▲95億円となり、総資金残高は前年比▲652億円の1兆8,508億円となりました。

総資金残高(期末残高) (単位:億円)



貸出金の状況

個人貸出金は住宅ローンの積み上げを中心に前年比+174億円となりましたが、会社分割の影響等により、法人貸出金は前年比▲2,037億円となった結果、総貸出金残高は前年比▲1,218億円の1兆1,782億円となりました。

貸出金残高(期末残高) (単位:億円)

